

セルフディスカバリーキャンプ (Self Discovery Camp)

青少年のネット依存への対策が喫緊の課題となっている状況を踏まえ、青少年教育施設を活用し、ネット依存傾向の青少年を対象に、自然体験や心理療法、ネット依存学習、家族支援等のプログラムの実施をし、ネット依存対策を図る。

◆事業受託者・事務局

国立青少年教育振興機構
教育事業部企画課

◆事業企画運営委員会

委員長：樋口進(久里浜医療センター院長)
委員：大橋晋文俊(名古屋石田学園星城高等学校 入試広報部副部長)

北湯口孝(久里浜医療センター心理療法士)
杉森伸吉(東京学芸大学教授)
中山秀紀(久里浜医療センター精神科医長)
三原聡子(久里浜医療センター主任心理療法士)
他 当機構職員4名

◆事業実施施設 国立赤城青少年交流の家

事業の概要

- メインキャンプの実施
 <キャンプの概要>
 ・対象：ネット依存傾向の青少年
 ・実施地域：群馬県前橋市
 ・実施主体：国立青少年教育振興機構
 ・メンター：当機構に登録する法人ボランティア10名
 ・参加者数：男子16名(13～23歳)
 ・参加者地域：関東14名、東北1名、中部1名
- フォローアップキャンプの実施(上記参加者対象)
- セカンドフォローアップキャンプの実施(過年度参加者対象)
- 事業企画運営委員会の実施(3回)

事業のねらい

- 事業のねらい
 - ①医学的なネット依存治療の最終的な目標は、「ネットを使用しなくなる。」又は「ネットの使用頻度が減る。」である。本事業に参加することにより、基本的な生活習慣を取り戻し、日常生活を改善するきっかけにする。
 - ②一定期間ネット環境から離れることで、ネットや電子ゲームへの関心が減少すること。

2. 期待される効果

- ①参加者自身の意識の変化
- ②ネット依存状態からの脱却(ネット以外の他の活動への興味)のきっかけづくり
- ③集団宿泊生活による基本的な生活習慣の確立
- ④コミュニケーション能力の向上
- ⑤人とのふれあいによる感受性・社会性の確立
- ⑥困難を克服する強い意志を育み、仲間と共に活動する喜びを体験する



事業の内容

1. メインキャンプ

・日程：平成28年8月20日(土)～28日(日) 8泊9日
 ・内容：

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
8月20日 土	8月21日 日	8月22日 月	8月23日 火	8月24日 水	8月25日 木	8月26日 金	8月27日 土	8月28日 日
朝のつどい	朝のつどい	朝のつどい	朝のつどい	朝のつどい	朝のつどい	朝のつどい	朝のつどい	朝のつどい
荷物検査	活動準備	活動準備	活動準備	活動準備	活動準備	活動準備	活動準備	活動準備
はじめの会	ネット依存学習(講義)	ネット依存学習(院談)	ネット依存学習(院談)	ネット依存学習(院談)	ネット依存学習(院談)	ネット依存学習(院談)	ネット依存学習(院談)	ネット依存学習(院談)
家族会	家族会	家族会	家族会	家族会	家族会	家族会	家族会	家族会
登山	登山	登山	登山	登山	登山	登山	登山	登山
交流の家～黒檜山登山口～駒ヶ岳～黒檜山山頂	交流の家～黒檜山登山口～駒ヶ岳～黒檜山山頂	交流の家～黒檜山登山口～駒ヶ岳～黒檜山山頂	交流の家～黒檜山登山口～駒ヶ岳～黒檜山山頂	交流の家～黒檜山登山口～駒ヶ岳～黒檜山山頂	交流の家～黒檜山登山口～駒ヶ岳～黒檜山山頂	交流の家～黒檜山登山口～駒ヶ岳～黒檜山山頂	交流の家～黒檜山登山口～駒ヶ岳～黒檜山山頂	交流の家～黒檜山登山口～駒ヶ岳～黒檜山山頂
野外炊事準備	野外炊事	野外炊事	野外炊事	野外炊事	野外炊事	野外炊事	野外炊事	野外炊事
野外炊事	野外炊事	野外炊事	野外炊事	野外炊事	野外炊事	野外炊事	野外炊事	野外炊事
入浴	入浴	入浴	入浴	入浴	入浴	入浴	入浴	入浴
登山説明	登山説明	登山説明	登山説明	登山説明	登山説明	登山説明	登山説明	登山説明
就寝準備	就寝準備	就寝準備	就寝準備	就寝準備	就寝準備	就寝準備	就寝準備	就寝準備
就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝
就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝

本事業の間合せ先

国立青少年教育振興機構教育事業部 企画課
 電話：03-6407-7713 E-mail: honbu-yousei@niye.go.jp HP: http://www.niye.go.jp/

POINT1

●メンター事前研修の実施
 メンターとしての役割やキャンプの趣旨、参加者への対応など事業を円滑に実施するため、7月に事前研修を開催した。ほかに「キャンプの目的・趣旨の理解」「ネット依存」「認知行動療法」等の予備知識について講義を実施した。

POINT2

●セカンドフォローアップキャンプの実施
 過年度事業参加者を対象に実施した。約1年以上ぶりに再会し、当時の楽しかった思い出と同時に、インターネットとの付き合い方が変わったきっかけや、生活を変えようとした気持ちなどを共有する機会を提供した。

POINT3

●家族会の実施
 家族の過度な自責感や不安感の軽減、これまでの対応の見直しと適切な対応の修得、キャンプ後の具体的な対応準備等を目的にキャンプ時に実施した。声掛けや対応方法に関する講義の後に、語り合いの場として座談会を実施した。

- フォローアップキャンプ(メインキャンプ参加者対象)
 - ・日程：平成28年11月4日(金)～11月6日(日) 2泊3日
 - ・内容：

1日目	2日目	3日目
電車移動	登山	認知行動療法
受付	交流の家～黒檜山登山口～駒ヶ岳～黒檜山山頂	野外炊事
荷物検査	休憩・入浴	家族会
はじめの会	夕食	終わりの会
カウンセリング	休憩	電車帰宅
野外炊事準備	たき火	
野外炊事	就寝準備	
入浴	個人時間	
登山説明	就寝	
就寝準備		
就寝		

- セカンドフォローアップキャンプ(平成26年度、27年度参加者対象)
 - ・日程：平成28年9月17日(土)～9月19日(月) 2泊3日
 - ・内容：

1日目	2日目	3日目
電車移動・集合	ネット依存学習	認知行動療法
マイクロスコープ移動	ネット依存学習	認知行動療法
荷物検査	活動準備	活動準備
はじめの会	ネット依存学習	ネット依存学習
カウンセリング	ネット依存学習	ネット依存学習
アイスパレイク	ネット依存学習	ネット依存学習
テント設置	ネット依存学習	ネット依存学習
野外炊事	ネット依存学習	ネット依存学習
入浴	ネット依存学習	ネット依存学習
焚火の会	ネット依存学習	ネット依存学習
自由時間	ネット依存学習	ネット依存学習
就寝準備	ネット依存学習	ネット依存学習
就寝	ネット依存学習	ネット依存学習
就寝	ネット依存学習	ネット依存学習

事業のねらいに対する成果

- ①1週間当たりの平均インターネット/ゲーム使用時間は、本キャンプ前は40.2時間(1日平均約5.7時間)であったのに対し、フォローアップキャンプ前では31.8時間(1日平均4.5時間)と減少が見られたが、有意差は認められなかった。
- ②事業1か月後に実施した保護者アンケートより「保護者自身が出来る限り早めに就寝するようにし、(子供にも)早く寝よう促している。そのため、起床がスムーズになった」と感想があった。
- ③また、「やったことに対してお礼がきちんと言えるようになった」や「ゲームをやめる声掛けをすれば、前より切り替えが早くなった」との感想があった。
- ④共同生活による協調的な雰囲気やメンター等のスタッフのフォロー、様々なアクティビティや心理療法への参加なども離脱症状軽減にも有用であったと考えられる。
- ⑤参加者アンケートより「自分のことを気軽に話せる仲間やアドバイスをくれるメンターと出会えてよかった」、「自分の不安などを解消することができ、充実したキャンプになった」や「(フォローアップで)メンター、参加者ともに参加率が高くて嬉しい」との感想があった。

課題と今後の展望

<課題>
 ○昨年度は参加者1名に対しメンター1名という体制としたが、つきっきりとなるメンターがうまく休息できず疲労が見られることがあったことから、今年度はグループ体制(参加者3名に対しメンター2名)としたが、個々の自由時間の際にメンターが参加者に対して十分対応できない時間があった。引き続き、参加者とメンターとの割合を検討していきたい。

<今後の展望>

○ネット依存傾向にある青少年を減少させるため、予防の観点から課題を抱える子供たちに関する事業を運営、実施を検討していきたい。

うまホキャンプ(秋田県)

青少年教育施設を活用し、ネット依存傾向にある児童・生徒を対象に、自然体験活動や認知行動療法等を取り入れた長期宿泊体験プログラムの実施を通じて、基本的な生活習慣を取り戻し、日常生活を改善するきっかけとなる場を提供した。

【事業検討委員】

- 委員長 坂元 章(お茶の水大学教授)
副委員長 浦野 弘(秋田大学教授)
委員 小泉 ひろみ(秋田県医師会常任理事)
清水 貴裕(秋田大学准教授)
齋藤 寛子(秋田県養護教諭研究会会長)
高橋 大洋(子どもネット研事務局)
木口 秀一(中学校長)
杉淵 富喜郎(小中学校長)
野崎 一(秋田県PTA連絡協議会会長)
その他 県教育庁関係課長 等

事業の概要

- 1 うまホキャンプの実施
メインキャンプ(6泊7日)+フォローキャンプ(2泊3日)
①対象: ネット依存傾向のある小学校5・6年生及び中学生
②実施施設: 秋田県岩城少年自然の家
③参加者: メインキャンプ 2名(中1男2名)
フォローキャンプ 7名
(小5男2名、中1男3名、中1女1名、中2男1名)
2 事業検討委員会の実施(2回)

事業のねらい

本県教育委員会では、子供たちのインターネット利用の問題を家庭教育の一つの課題と捉え、社会全体で子供たちをインターネットによる有害情報やトラブル等から守り、インターネットを健全に利用できるように、安全で安心な利用環境を整える「インターネットセーフティ」を推進してきた。それにより、保護者等への啓発やトラブル未然防止、様々な団体や機関とのネットワークの形成など、一定の成果をあげることができた。

しかし、その間、ネット利用の低年齢化や長時間化が急速に進んだため、保護者啓発、未然防止だけでなく、すでにネット依存傾向にある児童生徒への対応が課題となってきた。

そこで、自然体験や多泊体験に加え、医師による治療・相談、養護教諭やメンターのサポートで、生活習慣の改善を図るきっかけとする「うまホキャンプ」を実施した。

《期待できる効果》

- 長期宿泊体験活動を通し、基本的な生活習慣の改善
- カウンセリングや認知行動療法等を通し、自分の見つけ直し
- 仲間づくり活動やメンターとの交流等を通し、コミュニケーション能力の向上
- 自然体験等を通し、感受性の向上



事業の内容

【メインキャンプ】

- ①趣旨 自然体験活動、認知行動療法を取り入れた長期宿泊体験プログラムを実施した。
②期間 8月16日(火)~22日(月) 6泊7日
③医師等(臨床心理士も含む)5名 養護教諭 10名 メンター 3名
④プログラム内容

インターネットセーフティPRキャラクター「うまホ」

	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	
8/16(火)									バス移動・昼食	受付	はじめる会	オリエンテーション	荷物整理	仲間づくり活動	アイスブレイク	夕食	
8/17(水)									バス移動・昼食		油断ハイク	プロジェクトアドベンチャー	昼食	バス移動	バス移動	夕食	認知行動療法
8/18(木)									バス移動・昼食		野原の収穫体験	昼食	野外炊飯(オリジナル料理)	バス移動	夕食		入浴
8/19(金)	起床	部屋の整理整頓	朝のつどい	自由時間	朝食				バス移動・昼食		自然体験活動(いかほ布)	自然体験活動(いかほ布)	自然体験活動(いかほ布)	自然体験活動(いかほ布)	夕食		
8/20(土)									バス移動・昼食		海釣り(昼食弁当)	防災学習館	昼食	バス移動	夕食		
8/21(日)									バス移動・昼食		プロジェクトアドベンチャー	昼食	野外炊飯(オリジナル料理)	バス移動	夕食		キャンプファイヤー(発表)
8/22(月)									バス移動		そば打ち体験	親子で昼食	終わりの会	バス移動			入浴

本事業の問い合わせ先

秋田県教育庁生涯学習課 社会教育・読書推進班
TEL 018-860-5184 FAX 018-860-5816

POINT1

自然体験で活力アップ!

長期宿泊体験活動をととして、基本的な生活習慣の改善を図るきっかけとする。

野外炊飯 ウォークラリー
プロジェクトアドベンチャー
自然観察 創作活動 等

POINT2

医学的・専門的サポート!

認知行動療法やカウンセリング等をととして、自分を見つめ直す機会とする。

認知行動療法
カウンセリング
ワークショップ 等

POINT3

家族へのフォロー!

家族会をととして、保護者の不安や悩みを和らげる。

家族会
相談会 等

【フォローキャンプ】

- ①趣旨 メインキャンプの参加者の生活状況の確認や、基本的な生活習慣の定着を支援するほか、新たに参加者を募りより多くの方々に「うまホキャンプ」を実感させるため実施した。
②期間 1月7日(土)~9日(月) 2泊3日
③医師等(臨床心理士も含む)3名 養護教諭 4名 メンター 5名
④プログラム内容

	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	
1/7(土)									バス移動	受付	オリエンテーション	仲間づくり活動	認知行動療法①	夕食	創作活動	入浴	消灯
1/8(日)	起床	整理整頓	朝のつどい	朝食	準備	バス移動	スキー体験活動(鳥海高原矢島スキー場)	バス移動	バス移動	バス移動	バス移動	バス移動	夕食	認知行動療法②	夕食	入浴	消灯
1/9(日)	起床	清掃	朝のつどい	朝食	準備	認知行動療法③	だまご餅づくり体験	認知行動療法④	送別式	バス移動	バス移動	バス移動	夕食	認知行動療法⑤	夕食	入浴	消灯



創作活動(オリジナルシャツづくり)

【事業検討委員会】

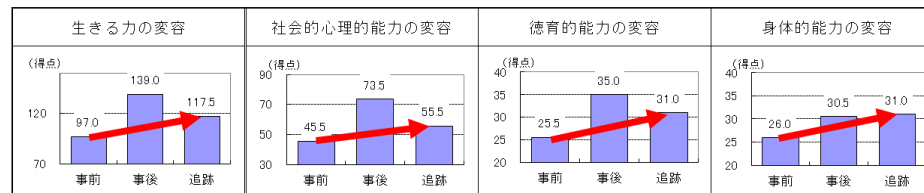
次の事項について協議・情報共有を行った。

- ・事業の具体的な取組内容について
- ・学校・医療・行政、その他関係機関・団体等の連携・協働について
- ・事業の企画・検証

【第1回】7月28日(木)

【第2回】2月2日(木)

事業のねらいに対する成果



※ 国立青少年教育振興機構「生きる力」の測定・分析ツールより

- 認知行動療法やカウンセリング等を取り入れた長期宿泊体験が、参加者自身の日常生活を見つめ直すきっかけとなり、生きる力の変容に明らかな効果が見られた。
- 家族会を通して、保護者が互いの悩みを共有したり、自身を振り返ったりすることにより、キャンプ後、家庭での子どもとの関わり方にも変容が見られた。
- 医師会、養護教諭研究会、大学等との連携で事業実施できたことにより、キャンプのねらいを達成するための仕組みを構築できた。

課題と今後の展望

- △メインキャンプの実効性は確認できたが、今後はそれを広く周知することが必要である。
- △全県域に事業を周知するための方策が必要である。(プレキャンプの実施)
- △医師、養護教諭、メンター等、多様な人材との連携が不可欠なため、事前・事後を含めた十分な情報共有の機会が必要である。

青少年のネットトラブル防止大作戦

Off-Line

Camp

人とつながるオフラインキャンプ(兵庫県)

兵庫県では、近年社会問題化しつつあるネット依存の実態調査を実施したところ、県内青少年の6.4%にネット依存の疑いがあるなどの実態が明らかとなったことから、ネット依存傾向にある県内青少年を対象に、ネットから離れて自然体験等を行うキャンプを実施するとともに、ネット依存の実態や危険性を調査・研究し、県民への普及・啓発を行うこととした。

- (青少年のネットトラブル防止大作戦推進会議の構成)
- ・兵庫県立大学環境人間学部 竹内 和雄 准教授【座長】
 - ・兵庫県立光風病院
 - ・兵庫県立神出学園
 - ・兵庫県青少年団体連絡協議会
 - ・兵庫県PTA協議会
 - ・こころ豊かな人づくり500人委員会阪神南OB会
 - ・東播磨青少年本部
 - ・株式会社サンテレビジョン
 - ・日本放送協会神戸放送局
 - ・株式会社神戸新聞社
 - ・株式会社ドコモCS関西神戸支店
 - ・株式会社テレックス関西
 - ・一般財団法人いえしま自然体験協会
 - ・兵庫県教育委員会事務局教育企画課
 - ・神戸市教育委員会事務局指導部人権教育課
 - ・兵庫県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課
 - ・兵庫県警察本部生活安全部青少年育成課
 - ・兵庫県企画県民部青少年課
 - ・公益財団法人兵庫県青少年本部【事務局】

事業の概要

- ①プレキャンプ
- ②オフラインキャンプ
- ③フォローアップキャンプ
- ④家庭訪問、電話相談等

・参加対象 ネットをやめられない、原則として県内在住の青少年
20名程度(小学5年～18歳以下)

・参加者 小5～高2 14名
(男:12名、女:2名 小:男1、中:男11、高:女2)

・会場 兵庫県立いえしま自然体験センター(姫路市家島町西島)

・実施主体
主催 公益財団法人兵庫県青少年本部
共催 兵庫県、兵庫県教育委員会、兵庫県警察
青少年のネットトラブル防止大作戦推進会議
一般社団法人ソーシャルメディア研究会
協力 独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター
コーディネーター 兵庫県立大学環境人間学部 竹内 和雄 准教授
メンター 一般社団法人ソーシャルメディア研究会 11名

事業のねらい

- ①キャンプ参加者がネット利用等の日常生活をふりかえり、改善するきっかけとする。
- ②キャンプ参加者の行動評価等により、ネット依存の実態把握に努め、ごく普通の子供たちがネット依存のような状況に陥ってしまう危険性や、回避するための方策を検討・構築する。
- ③ネット依存の実態や危険性、回避・予防策を周知することにより、ネット依存の未然防止を図り、青少年が健全にネットを利用できる環境の構築の一助とする。

事業の内容

①プレキャンプ 平成28年7月9日(土)

時刻	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
分	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15
1日目	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)
2日目	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)

■認知行動療法の要素を取り入れ ■家族向けプログラム ☆コミュニケーションを深めるための食事作り ★前日作ったデザートを食べたい



●本事業の問い合わせ先 公益財団法人兵庫県青少年本部 企画部県民運動担当
Address: 〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1 兵庫県企画県民部青少年課内
Tel: 078-362-3142 E-mail: seishonen@pref.hyogo.lg.jp Web: http://www.seishonen.or.jp/

POINT1

■離島でのリアル体験
子供たちにとって魅力が大きいネットに対抗するため、離島で仲間と協力し、楽しみながら達成感を感じることでできるリアル体験と、認知行動療法の要素を取り入れた日常生活のふりかえりを織り交ぜたプログラム構成とした。

POINT2

■スマホ部屋の設置
スマホ等を主催者で預かり、夕方1時間のフリータイムに利用できるスマホ部屋を設置。会場はほぼ圏外のため、NTTdocomoの協力で電波増幅器等を設置した。スマホを使える状態で「使うのか」「使わないのか、自分で考えさせるのが狙い。

POINT3

■取材の受け入れ
ネット依存の実態や危険性を広く啓発するため、参加者の個人情報保護に配慮しながら、報道機関の取材を受け入れるとともに、(株)サンテレビジョンの協力を得て、面談等の映像を記録し、事後分析に活用した。

②オフラインキャンプ 平成28年8月16日(火)から20日(土) 4泊5日

時刻	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
分	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15
1日目	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)
2日目	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)
3日目	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)
4日目	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)
5日目	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)

③フォローアップキャンプ 平成28年11月5日(土)から6日(日) 1泊2日

時刻	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
分	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15	30	45	0	15
1日目	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)
2日目	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)	移動(バス)

④家庭訪問、電話相談等 継続した支援が必要と思量される参加者・保護者に対し、家庭訪問等を行った。

事業のねらいに対する成果

- ・今回の参加者は、自身を取り巻く様々な問題が、ネット依存という形で露呈していることがほとんどであった。
- ・ほとんどの参加者が、キャンプをきっかけに、前向きに改善に取り組むことができるようになった。自身のネットの使用状況を見つめ直すことができた参加者は、日常生活においても改善がみられた。
- ・自分自身でスマホをやめられない参加者には、保護者とのルールづくりへの支援を行うとともに、デジタルアーツ(株)の協力を得て、フィルタリングの利用時間制限を設定することで、改善に向かった。
- ・改善のためには、家庭でのルールづくりなど、保護者をはじめとする周囲の継続した支援が必要と考えられる。

課題と今後の展望

- ・部活動や授業、事業効果等を勘案し、益明けに4泊5日としているが、参加者確保の努力が必要。
- ・大学生メンターが参加者に寄り添った効果が大きかったが、過度の負担がかかっており、軽減策の検討が必要。
- ・認知行動療法の要素を取り入れた結果、参加者が自身のネット利用について考える動機づけとなったが、参加者の依存度など、本事業に合わせたものにしていく作業が必要。

今後も引き続き、産官学民が連携して本事業に取り組み、他の地域でも実施可能なプログラムの構築や、ネット依存の回避・予防策の検討等を行い、周知・啓発していく。